

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25590265

研究課題名(和文) 学習者のための評価規準を活用した達成改善型授業研究の教育効果の研究

研究課題名(英文) A study of the education effect of the lesson study based on the achievement improvement type that utilized the evaluation standard for learners

研究代表者

池野 範男 (IKENO, NORIO)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：10151309

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、授業研究を達成改善型に変革し、そのマニュアルを作り、それにもとづき、教育を変えることを目指している。3つの学校で達成改善型授業研究を行い評価し、教育効果を確定した。2013-14年の研究では、広島大学附属小学校、尾道市の2つの中学校で、実験的に試行した。また、2014年10月には、米国、シンガポール、韓国の研究者を招聘し、授業研究を観察するとともに、達成改善型授業研究に関する意見を求め、議論した。研究成果は、学習者用評価規準を作り出すことができたこと、評価規準を観察者、教師だけでなく、学習者にも活用してその授業における学習達成に関する自己評価を進める試みを行ったことである。

研究成果の概要(英文)： This study revolutionizes a lesson study in an achievement improvement model and makes the manual and, based on it, aims at changing education. I performed an achievement improvement type lesson study in three schools and evaluated it and established an education effect. In the study of 2013-14 years, I tried it among an elementary school attached to Hiroshima University, two one of Onomichi-city experimentally at school. In addition, in October, 2014, I invited three researchers from United States, Singapore, South Korea and observed a lesson study and found the opinion about the achievement improvement type lesson study and argued. That the results of research were able to create evaluation standards for learners. It is to have tried that I utilize an evaluation standard to an observer, not only the teacher but also learner and push forward auto-criticism about the achievement of learning in the class.

研究分野：社会科教育学

キーワード：授業研究 達成改善型

1. 研究開始当初の背景

授業研究は世界において注目され、Jugyou-kenkyu や Lesson Study という英語によって欧米、アジアで盛んになっている。国内でも、2011年には世界授業研究学会 (World Association of Lesson Studies) (WALS) が東京大学で開催され、日本教育方法学会による授業研究に関する著書 (2009)、英語版 (2011) にて総括的に示されている。従来の授業研究は指導改善型と呼べる教師の指導力、教育実践力の向上に、重点を置いていた。

現在、学校現場において進められている授業研究は次の4点で課題をもっている。

授業研究の効果が判然とせず、行うことに意義があるという惰性的な側面をもっていること。

授業研究の研究目的、ねらいが明らかではなく、曖昧であること。

学校現場の関心が教師から学習者に移行していることから、授業研究の目的を学習者の学習成長の問題と捉えているが、それを判断する手立てが作り出されていないこと。

とりわけ、教育現場における授業研究が指導案に基づく検討を進めているが、そこに書かれている指導の内容と方法に関して議論を行っているが、学習者の達成に関して、またそれに関わる評価規準に関しては検討しないこと。

これらの研究課題は、各学校における授業研究における教師の指導改善のみならず、学習者の達成改善を必要としている。従来の授業研究の内容と方法の両側面にかかわり、改善・改革を必要としている。

2. 研究の目的

授業研究に関するこれらの課題克服方法として、研究代表者、池野を中心とした広島県の小学校・中学校グループは、次の4

つの目的を設定した。

学習者に達成させたい状態を事前に学習者用評価規準として想定する。

この評価規準にもとづき、それへの達成を A、B、C という3つの段階に区分する。

教師と学習者の両者においてその達成度が確認でき、その授業の良し悪しを判定する。

以上の3つを実際にできるように試みる。

これらを本研究の目的にした。これらの目的は学校の各授業研究の改善を促すとともに、学習者一人一人の学習達成度を測り、その成長を見極めるものとして働くことができる。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成する研究の方法として、「達成改善型授業研究」を生み出した。達成改善型授業研究とは、上述の からを満たすように、学習者に達成させたい状態を事前に学習者用評価規準として想定し、それにもとづき、それへの達成を A、B、C という3つの段階に区分し、教師と学習者の両者においてその達成度が確認でき、その授業の良し悪しを判定する、授業研究の方法である。

2013-2014年度の2か年の研究は、全体目標として、達成改善型授業研究の有効性を教育効果の調査によって検証すること、下位目標1として、達成改善型授業研究の基本マニュアルを策定すること、下位目標2として、3つの小・中学校において、達成改善型授業研究を行い、検証すること、下位目標3として、外国の授業研究者による評価を受け、その有効性と汎用性を確定することにおいた。

このような方法を、(1)達成改善型授業研究マニュアルとして作成し、(2)広島大

学附属小学校、尾道市の2つの中学校で、実験的に試行した。また(3)2014年10月には、アメリカ、シンガポール、韓国の授業研究者を招聘し、授業研究を観察するとともに、達成改善型授業研究に関する意見を求め、議論した。

4. 研究成果

2013-2014年度の研究の特質を総括すると、学習者用評価規準を作り出すことができたこと、評価規準を観察者、教師だけではなく、学習者にも活用してその授業における学習達成に関する自己評価を進める試みを行ったこと、イギリス、韓国の外部評価者から、一定の効果があると評価されたことを挙げるができる。

そして、研究成果として次の2点を提示できる。

学習者用評価規準を個別單元ごとに作り出すことができたこと。

評価規準を観察者、教師だけではなく、学習者にも活用してその授業における学習達成に関する自己評価を進める試みを行ったこと、である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. 池野範男「伝統文化教材による社会形成力育成」広島大学附属小学校学校教育研究会編『学校教育』第1169号、2015年1月号、38-43頁。(査読無)

2. 池野範男「社会形成力を育てる小学校社会科の個別授業研究」『学校教育』第1154号、2013年10月号、32-37頁。(査読無)

[学会発表](計 1 件)

1. Norio Ikeno, The Purposes of Lesson Study on Subject Pedagogy and its Contribution to the Education Studies Korean Association for Learner-centered Curriculum and Instruction, Duksung Women's University, Seoul Korea, 21 November 2014.

[図書](計 1 件)

1. 的場正美・池野範男・安野功著『社会科の新しい使命』日本文教出版、2013年。担当：第二章、79-137頁

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

池野範男 (IKENO.NORIO) 広島大学・教育学

研究・教授

研究者番号 : 10151309

(2)研究分担者

()

研究者番号 :

(3)連携研究者

()

研究者番号 :